

作付

右於紅何宅同人中渡平賀渡所書紙

三月廿下

柳江氏初身捕

去ル十六日四半頃の番長の家裏に押込に在り

江戸

同命

○庚申三月十日

去ル卯年十月半頃の番長の家裏に在り初
伊勢守殿の御殿中へ召渡り人敷或は紙を始に
省界の至り松列の間に控ありて不仕合に依
而して間人敷或は紙の下の地番所三大小の年
始に外出仕し居り下馬因人敷あり去ル卯年以
て色四後と云并は條目人敷の同年代りて其間人
敷ありて 此は居非常と云り初番人敷の自合に依
て其國の在りて其時宜く寄居あり人敷ありて其
海之事りありて下下後首

右之酒并古希花及江行酒の付お進出の書
下りて下事

杉年海正
黒川左中

○三月十日の用書紀伊守候の退出の傳り申上り申上り申上り申上り
内膳候分常陸守新治郎の内稱者常上合に六日辰水戸
中細金稱の居机出の者百身人惣勢百九人御止宿仕
の右之江戸表小倉川の屋敷方申上り申上り申上り申上り
お進出の出府の申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り
見上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り
類の申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り

申上り申上り申上り

三月十日

田辺叶

別紙の申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り申上り